

(2) 東北



東北地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

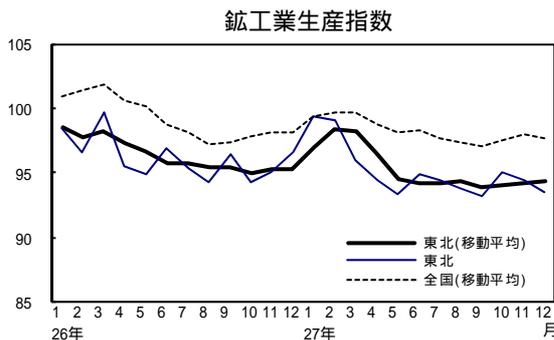
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 11 月)	今回 (平成 28 年 2 月)	
住宅建設	大幅に増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、弱含んでいる。

10～12月期には、電子部品・デバイスは、コネクタがスマートフォン用の海外向けが減少した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置が堅調ではあるものの減少した。食料品・たばこは、清涼飲料がメンテナンス明けのため増加した。情報通信機械は、携帯電話・PHSが春モデル製品の生産が増えたことにより増加した。輸送機械は、乗用車が前期の新型車効果の反動により減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	16.9	4.4	0.4	2.9	0.3	2.5
はん用・生産用・業務用機械	14.7	2.4	4.4	0.3	3.9	8.1
食料品・たばこ	10.6	7.4	4.4	4.2	0.3	5.5
情報通信機械	9.2	6.4	7.0	4.1	0.3	13.3
輸送機械	8.3	0.6	0.9	0.8	0.0	4.3
鉱工業	100.0	0.4	0.5	2.0	0.7	1.0

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

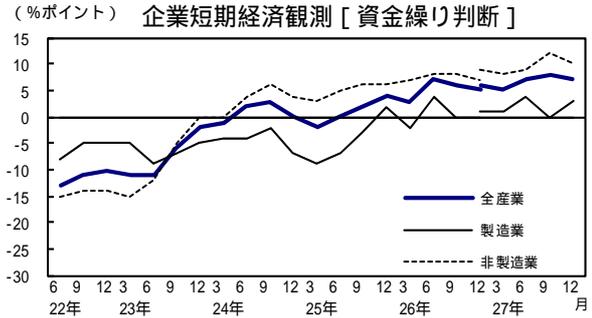
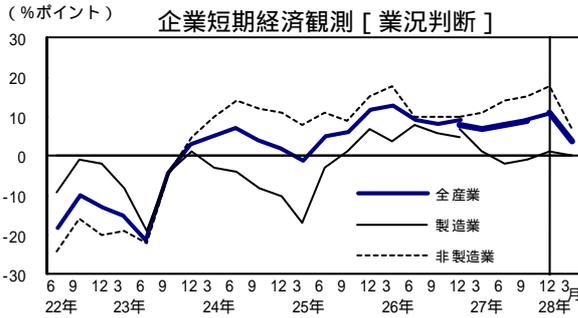
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10～12月期、12月は速報値。

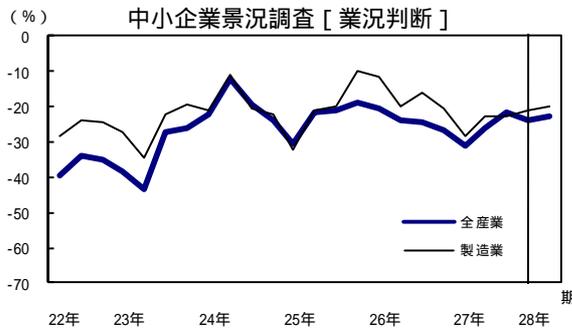
(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

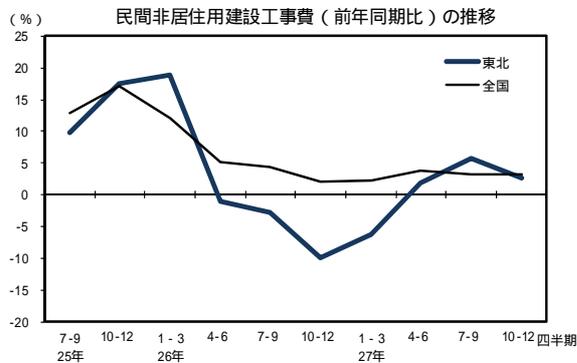


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「年度末に向けての受注が増えている。しかし、今年からは何件か経費削減のために注文を取り止めるケースが出てきている(出版・印刷・同関連産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度見通
全産業	14.9	7.9(0.1)
製造業	29.3	5.1(2.3)
非製造業	2.5	10.9(3.0)

(備考) ()は前回(9月)調査比修正率。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.0%減、11月は同2.0%減、12月は同0.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額

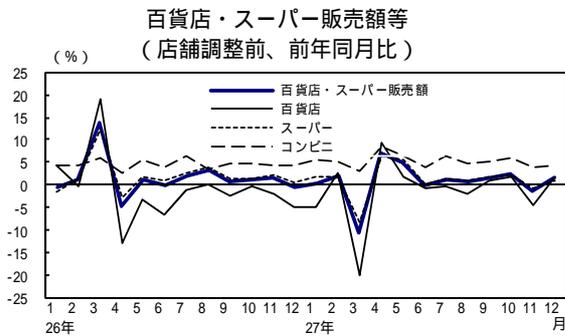
百貨店は、10月は、婦人コート、スカートなどがふるわず衣料品は前年を下回った。飲食料品は、精肉、鮮魚、総菜が堅調で前年を上回った。その他の商品は、美術品や高級時計などの高額品のほか、化粧品に動きがみられ前年を上回った。11月は、コート、ニットなどがふるわず衣料品は前年を下回った。飲食料品は、お歳暮の動き出しが鈍かったこともあり前年を下回った。その他の商品は、一部店舗における催事の後ろ倒しの影響もあり前年を下回った。12月は、防寒衣料がふるわず衣料品は前年を下回った。飲食料品は、精肉、野菜、総菜の好調に加え、おせちにも動きがみられ、前年を上回った。

スーパーは、衣料品は前年を下回ったものの、飲食料品は前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

東北地域の家計動向関連DIは、47.3となり前月より1.6ポイント上昇した。

「暖冬や原油価格下落の影響が良い方向に出てきており、生活必需品の消費が上向いている (スーパー)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

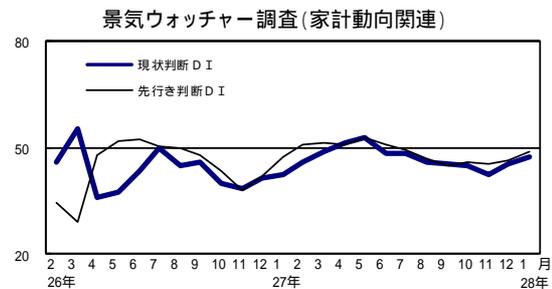
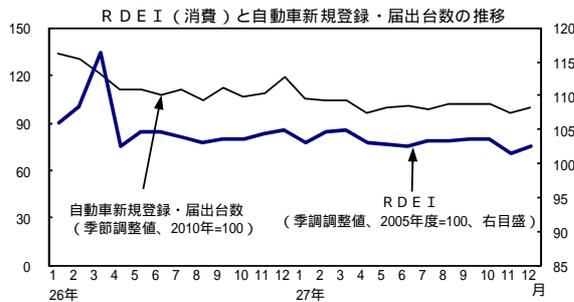


	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.8	0.0	2.0	0.9
百貨店・スーパー(*2)	0.9	2.4	1.2	1.4
百貨店(*2)	0.2	2.0	4.6	1.8
スーパー(*2)	1.0	2.4	0.6	1.1
コンビニ(*2)	4.9	6.2	4.1	4.3
乗用車(*3)	10.5	6.2	9.7	15.7
(季節調整値)(*3)	1.2	0.4	5.6	2.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

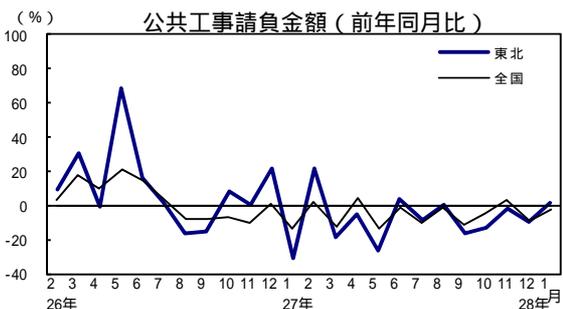
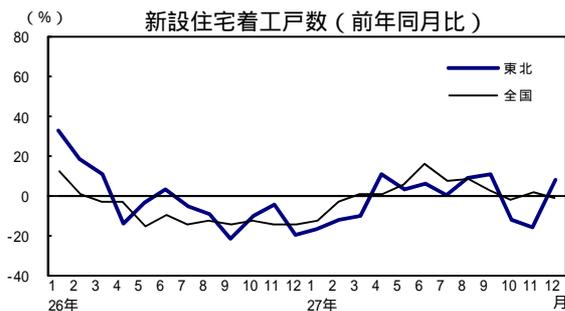
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比) (%)



(2) 住宅建設は、減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は、27年度累計で見ると前年度を下回っている。

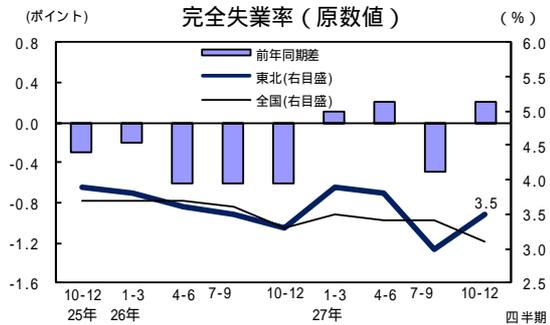
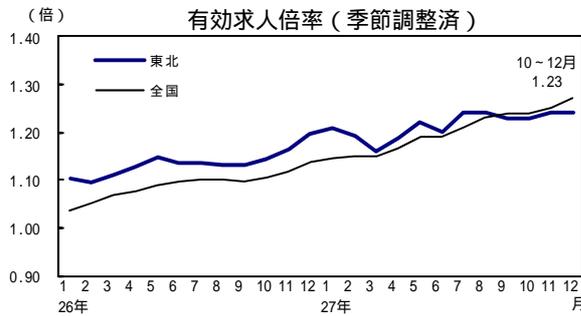


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

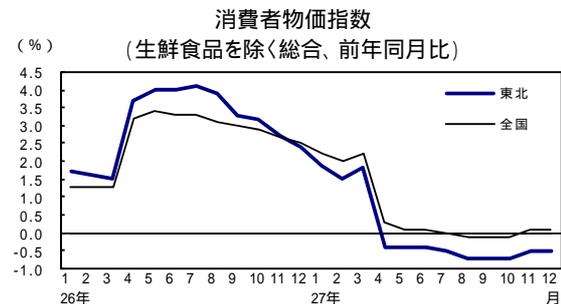
「企業側の採用の動きは堅調であり、欠員補充だけでなく中長期を見据えた採用も多々みられている。また、費用をかけてでも採用をするという動きを取る企業の数も増えている (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
倒産件数	117	109	83	105	35
(前年比)	0.0	1.8	25.9	8.2	12.9
負債総額	247	173	173	331	38
(前年比)	58.3	13.6	47.3	68.9	51.6



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・1月に入って気温の低下が続いており、防寒用品を求めて来客数が増え始めている。セール品やマークダウン商品が中心ではあるものの、少しずつこれまでになかった積極的な購買行動が見受けられている (百貨店)

<先行き>

・人が動く時期であり、歓送迎会などによる飲食店への販売量の増加に期待したい。また、このまま原油価格がある程度安い状態が続けば、消費者の購買意欲が高まるのではないかと (その他専門店 [酒])

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

